

シビルダイアログ・キャラバン

信頼学×保育園×カフェ： 世界のつながりを「自分ごと」にするには

太田(塚田) 絵里奈

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

2021年度以降、保育園のコミュニティ・スペースにおいて開催された総括班のシビルダイアログ型イベントでは、家族連れをはじめ多くの来場者を集めてきた。今年度は株式会社ディレクションズの協力のもと、下北沢のカフェギャラリーで展示を行なうことで、新たな展開を模索した。



保育園でのおはなし会(2023年11月)：迫力ある写本挿絵も子どもたちの心を掴んでいた

保育園でのシビルダイアログも三年目を迎えた。2022年度全体集会と併せて開催された、企画展「学知の共創を考える」(2023年2月27日～3月10日)では、過去二年間の企画・展示を振り返り、その成果と課題をめぐるディスカッション型の関連イベントが行なわれた。また、京都大学学際融合教育研究推進センター、こども環境学会の年次大会など、外部で本企画の狙いや成果について報告する機会もいただいた。これらの展示、報告の目的は学究のアウトリーチをめぐり、文字通り「物議を醸す」ことにあったが、企画展の視察に訪れた教育コンテンツな

どを手がける制作会社・ディレクションズの社員の方にお声がけいただいたことから、繁華街のカフェを舞台にしたアウトリーチという、新たな試みが始まった。

「つながりづくり」の大きなステップである園生活を通じて、多様性に満ちた世界を知り始めた子どもたちに、正解のない問いに向き合うことの大切さを伝えたい。その思いから始めた保育園でのシビルダイアログでは、全世界的な視座から「つながり」をキーワードに、人類の歩みを振り返ることを大きな目標に掲げている。今年度はテーマを「物語がつなぐ世界」に設定

企画展「学知の共創を考える」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

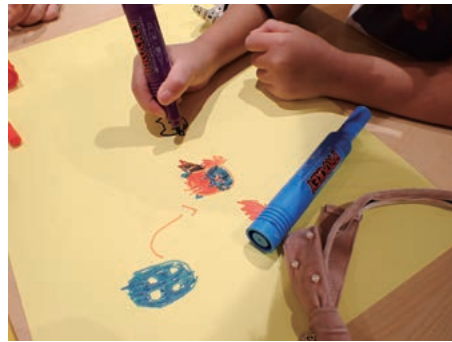


し、ペルシアの民族叙事詩『シャー・ナーメ』に題材を求めた。イランの自然や伝説に思いをはせながら、生まれるまでに250年を要するといわれる霊鳥シームルグのたまごを創作する「研究のお手伝い」をこどもたちに依頼した。

今年度もこどもたちは様々なアイデアや疑問をもとに、お互いに想像を膨らませながら次々と形にしていっていった。その探求の成果を多くの方に見ていただけるよう、カフェのギャラリースペースを一か月にわたりお借りすることとなった。今回は事前に関係者間で内容を共有し、すり合わせやブラッシュアップを行なうフローであったが、そのやり取りのなかで痛感したのは、研究者として「よい」と思うもの、見せたいものは、必ずしも社会が求めているもの、受け入れられるものとイコールではない、ということである。今回対象になるのはカフェの利用客であり、当然ながら展示を目的として来店するわけではない。そこでこれまでの保育園での展示よりも解説の文



物語から生まれた“設計図”



誕生から成長、復活の秘密を描く



アイデアを形にする

字量を削減し、シンプルで分かりやすさを重視した「つもり」だったが、ディレクションズの担当の方にパネル原稿案を渡したところ、大幅な改編を提案されたことに衝撃を受けた。だがその衝撃こそ、この展示で自分が得たものの一つだったと思う。

いただいた提案は、これまでのように学術的な解説を前面に出すのではなく、こどもたちの製作風景を中心に据える内容で、パネルの配置にも大きく変更が加えられ、展示解説はやや隅に追われた（語弊があるかもしれないが）。だがそれによって、展示全体にまとまりが生まれ、探求するこどもたちの様子からシームルグの物語へと引き込む「動線」が生まれた。研究者がどんなに分かりやすく提示した「つも

り」でも、関心のない方に読んでもらうには、さらに何段階かの工夫が必要になる。今回は保育園と民間企業とのコラボレーションであったが、アウトリーチに際しては、研究者の「自己満足」や「独りよがり」にならないよう、全く異なる分野の方との協働作業という方法は非常に有効であると思う。

我々は研究者として見せたいものがある。ただし、その見せたいものは、そのままの形では社会に広く届かない。アカデミアと社会を「架橋」することが簡単ではないことは、この三年間で実感してきたが、それぞれを異なるものと捉えるからこそ橋渡しの必要と困難が生じるのであり、世界を広げ、自分を知るという学問の原点に立ち返れば、そこに「研究者」と「社会」という

区分は思うほどないのかもしれない。工夫が必要なのは内容ではなく見せ方なのだ。

私はこのシビルダイアログを、自身の研究をより大きな文脈のなかでとらえ直す作業だと思っている。つまり見せたいものを突き詰めていけば、普遍性にたどり着く。そして自分の研究の先にある普遍性とは「世界のつながり」、すなわちこのプロジェクトの核であり、ゴールなのだということを改めて振り返る機会となった。世田谷代田仁慈保幼園の先生方、ディレクションズ、カフェギャラリー関係者の皆様、そしてイランの自然と伝承をもとにシームルグの姿と復活をめぐる秘密を考えてくれたこどもたちに、心から御礼を申し上げる。

カフェ店内でのシビルダイアログ展示（「シームルグのたまご」）：こどもたちの“探究”を中心としたレイアウト



2023年度シビルダイアログ企画

「イスラーム信頼学」ワークショップ & ギャラリー展示

「シームルグのたまご」：ペルシアの叙事詩からつながる物語

【ワークショップ】

2023年10月23日（月）、
24日（火）、27日（金）10:00～12:00

【展示】

2023年12月21日（木）～
2024年1月24日（水）

企画・運営：

太田（塚田）絵里奈・本田直美（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
菊地みぎわ・根本京子（世田谷代田仁慈保幼園）

協力：

タリーズコーヒー下北沢店・株式会社ディレクションズ